

日本動物学会はなぜ新刊OAジャーナルを刊行したのか

Rationale for publishing a new ZSJ open access journal

*永井 裕子¹

*Yuko Nagai¹

1. 公益社団法人 日本動物学会
1. The Zoological Society of Japan

2015年1月 日本動物学会は、BioMed Central より、新刊Open Access(以後OA)ジャーナル Zoological Lettersを発刊しました。本口演では、日本動物学会ジャーナル出版の歴史を踏まえて、Open Access誌の刊行をなぜはじめたのか？今後の大きな課題は何か？について、お話しをしたい。

1. 動物学会は創立140周年

1878年（明治11年）前身となる東京生物学会を設立、1885年（明治18年）には東京動物学会へと名称を変更した。1888年（明治21年）に動物学雑誌 Zoological Magazine . 1897年（明治30年）には欧文誌の動物学彙報Annotationes zoologicae Japonensesの発行を開始している。この2つのジャーナルを統合し、1984年に誕生したのが、Zoological Science (ZS) であり、現在35巻の刊行を行っている。ZSは購読料モデルを確立しており、独立採算となって出版が行われている。

2. OAジャーナル刊行の決断

OA時代を迎えて、ジャーナルをどんなモデルで出版するかは、特にこの10年、これからの10年難しい課題となっている。OAメガジャーナルであるPLoSOneの登場は、新しいOA時代のはじまりのようであった。そして、大手出版社も皆が、OAジャーナルへの刊行に走ったようであったが、「購読料モデル」はまだ大半を占めている。

どう動くかわからない時代にむけ、本会は、3年にもわたる討議を経て購読料モデルとOAモデル二つのジャーナル出版を、決断した。

3. 検討課題

○APC価格設定とIF

○いつからAPCを徴収するかZSとZL

○2つのジャーナル出版

キーワード：オープンアクセス

Keywords: Open Access